

【学校図書館運営】

第5学年 地域創造学学習指導案

住田町立有住小学校

児童 5年 16名

授業者 菊池雅子

1 単元名 東日本大震災津波から学ぶ「大震災の時の住田を調べよう」

2 単元について

(1) 教材（題材）について

東日本大震災津波により気仙地区は甚大な被害を受け、震災から10年以上経つ現在でもその復興は道半ばである。震災津波の教訓は、決して忘れることなく後世に伝え、郷土を愛し、その復興・発展を支える人づくりにつなげていかなければならない。また、震災津波発災の際、気仙地区の内陸部にある本町は、沿岸部の支援として、被災した人々を受け入れたり後方支援の基地となったりするなど大きな役割を果たしており、このことも本町の子どもたちにはしっかりと捉えさせていきたい本町の重要な取組である。また、近年毎年のように全国でおきている自然災害に目を向けさせ、自然災害から生命を守っていくことや地域防災のために大切にしていかなければならないことについて考えることができるようにしていきたい。

(2) 児童について

児童は、第1ステージの1・2年生では、自分たちの身近な地域、有住地区を対象に学習を進め、第2ステージの3・4年生では、小学校間の交流や気仙川等の学習を通し、住田町や気仙地区に範囲を広げながら学習を進めてきた。その際には、たくさんの地域の方やゲストティーチャーとのかかわりを大切にしながら学習を進めてきた。また、学年が進むにつれて、図書やタブレットなどを活用して調べ学習を進め、探究活動に取り組めるようになってきてはいるが、選書・資料の選定の難しさを感じている児童も多い。その一方で、家族などと出かけた際に、学習内容と関係あるパンフレットやリーフレットを積極的に集めてきたり、関連する図書を見つけて学級で紹介したりする児童が増えてきており、進んで学習に取り組もうという意欲が高まっていることを感じる。

(3) 指導について

本校では、課題を自分事として捉え、積極的に活動に取り組むことができるような指導の工夫を行っている。

本時の指導では、これまで様々な資料（書籍・町広報「すみた」・新聞・パンフレット等）で調べてきたことについてゲストティーチャーから話を聞く場を設定する。自分が調べてきたこととつなげて聞くことを意識させることで事象への理解を深められるようにしていきたい。また、資料には書かれていないゲストティーチャーの思いや願いの部分について着目させることで、より、多面的・多角的に考えたり、考えを受け入れようとしたりする他者受容の力が高められるように指導していきたい。

3 学校図書館教育との関連

【図書館運営】

- ・「学習・情報センター」としての機能を促進させるため、「創造コーナー」を設置し、新聞や町広報、郷土資料やパンフレット等の地域関連資料を充実させる。
- ・「魅力ある図書館運営の工夫」として、学習テーマに沿った「本の紹介コーナー」や、その本を活用して学習した際の成果物等の展示コーナーを設ける。

4 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・東日本大震災津波の被災状況や復興に取り組む人々の様子、その時の住田町の支援の様子等について理解し、自然災害から身を守るために必要なことを捉えることができる。〔A 地域理解〕
- ・東日本大震災津波や地域防災について、自ら問題を発見して解決の見通しをもって探究し、その内容や意味について考察するとともに、震災からの復興や防災のために大切なことを考え表現することができる。〔B 社会参画に関する資質・能力〕
- ・東日本大震災津波や防災について知る地域の方や、探究をともに行う友達と対話しながら探究活動を進めたり、問題の解決を協力して行ったりすることができる。〔C 人間関係形成に関する資質・能力〕
- ・東日本大震災津波や地域防災の探究活動について、探究の状況を振り返りながら、よりよい探究となるよう調整して活動を進めることができる。〔D 自律的活動に関する資質・能力〕

(2) 評価規準

A 地域理解	B 社会参画	C 人間関係形成	D 自律的活動
東日本大震災津波の被災状況や復興に取り組む人々の様子、その時の住田町の支援の様子等について理解し、自然災害から身を守るために必要なことを捉えている。	東日本大震災津波や地域防災について、自ら問題を発見して解決の見通しをもって探究し、その内容や意味について考察するとともに、震災からの復興や防災のために大切なことを考え表現している。	東日本大震災津波や防災について知る地域の方や、探究をともに行う友達と対話しながら探究活動を進めたり、問題の解決を協力して行ったりしている。	東日本大震災津波や地域防災の探究活動について、探究の状況を振り返りながら、よりよい探究となるよう調整して活動を進めている。

5 単元の指導・評価計画（本時 小単元二次 第6時／全10時間）

プロセス	時	学習活動	評価
問題の把握・現状の理解	2	○ 住田町の仮設住宅の写真資料をもとに、震災津波発災に対する住田町の取組について知り、住田町の被災状況や被災地支援について知っていることを話し合う。 ・資料等をもとに、住田町の被災状況や被災地支援についてその概要を調べる。 ・震災津波に対する住田町の取組について調べたいことを話し合い、探究の見通しをもつ。	B 1：見通す (振り返りの記述) B 4：好奇心・探究心 (振り返りの記述)

見通しをもつ	1	○ 震災津波と住田町との関わりについて調べる内容や方法について話し合う。 ・詳しく知っている人から話を聞くことや住田町の仮設住宅を見学することなど 震災津波と住田町の関わりについて調べる計画をまとめる。	C 2 : 協働する (調べる計画を考えている際の観察)
情報収集	4	○ 東日本大震災による住田町の被災状況や被災地への支援の様子について、当時の新聞などの資料を基に調べたり、詳しく知っている人から話を聞いたりする。 ・仮設住宅跡の見学や、当時の新聞などの資料を基に、当時の状況を知る。 ・前町長をゲストティーチャーとして招き、当時の住田町が行った支援について話を聞く。(本時)	B 2 : 多面的・多角的に考える (調査活動の際の観察、発言や振り返りの記述) C 3 : 他者受容 (振り返りの記述)
まとめ・振り返り	3	○ 第3次の「自然災害から自分たちを守るために」への見通しと意欲をもたせる。 ・これまで調べたことをもとに、住田町による被災地支援の取組の意味や意義について話し合い、町の取組に対する自分の考えをまとめる。 ・全国で大規模な自然災害が毎年のように起きていることについて知り、自分の身の周りでの防災について探究し、行動化していく見通しをもつ。	B 2 : 多面的・多角的に考える (震災津波に果たした、町の役割についての振り返りの記述)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ゲストティーチャーの話から、東日本大震災による住田町の被害の状況や被災地への住田町の支援の様子、かかわった人々の思いを理解することができる。

【B 社会参画に関する資質・能力 B2☆多面的・多角的に考える力】

【C 人間関係形成に関する資質・能力 C3★他者受容】

(2) 評価○チェックリスト

みとる資質能力	項目	支援の手立て
B 社会参画 B2☆多面的・多角的 C 人間関係形成 C3★他者受容	ゲストティーチャーの話を聞き、東日本大震災による住田町の被害の状況や被災地への住田町の支援の様子、かかわった人々の思いについての自分の考えを書くことができたか。	板書や友達の考えをもとに、携わってきた方の思いや願いについて気付かせる。

(3) 展 開

段階 (時間)	学 習 活 動	・指導上の留意点 ◆評価
導 入 (7)	1 前時の学習を想起する。 ・東日本大震災津波に関わる住田町の取組について自分が調べてきたことについて想起する。 2 学習課題を確認する。	・ゲストティーチャーのお話を、より自分事として聞くために、東日本大震災による住田町の被害状況について確認する。また、教室掲示やワークシートを参考に、前時まで調べた内容について確認する。 ・どんな資料を使って調べたかについて触れる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ゲストティーチャーの話から、東日本大震災による住田町の被害の状況や被災地への住田町の支援の様子について理解を深めよう。 </div>	

		<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが調べた東日本大震災津波に関わる住田町の取組のことと比べながら聞く、という聞き方の視点を確認する。
展 開 (30)	<p>3 ゲストティーチャーに質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が調べてきたことの中で詳しく知りたいことについて質問する。 <p>4 ゲストティーチャーの話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に関わる住田町の取組や、それに関わる住田町の取組に対する思いや願いについて話を聞く。 <p>5 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に関わる住田町の取組と関わった方々の思いについて考えたことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 質問の際には、自分がどんな資料で調べたかについて伝えるように確認する。 ゲストティーチャーの話を分かりやすく板書したり、事前に把握していた児童の調べたいことを引き出し、質問のきっかけをつくったりして、ゲストティーチャーと児童をつなぐようにする。 話を聞く前と聞いた後の自分の変容に目を向けさせる。 <p>◆ゲストティーチャーの話を聞き、東日本大震災に関わる住田町の取組と関わった方々の思いについての自分の考えを書くことができたか。</p> <p>B2 多面的・多角的 C3他者受容 (チェックリスト)</p>
ま と め (8)	<p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 振り返りを発表し、全体で交流する。 <p>7 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今日の学習から分かったことや感じたことをまとめ、感想を書かせる。 児童の振り返りを全体で交流した後、振り返りについてゲストティーチャーに感想を伺い児童にフィードバックする。 次時からは、東日本大震災に関わる住田町の取組についてまとめていくことを確認する。

(4) 板書計画

東日本大震災津波から学ぶ

聾ゲストティーチャーの話から、東日本大震災による住田町の被害の状況や被災地への住田町の支援の様子について理解を深めよう。

GTのお話 事実・思いや願い



探究のプロセス

資質・能力

B2、C3

GTの写真
プロフィール

調べたこと・予想

- ・
- ・
- ・
- ・

児童の感想等 (まとめ)